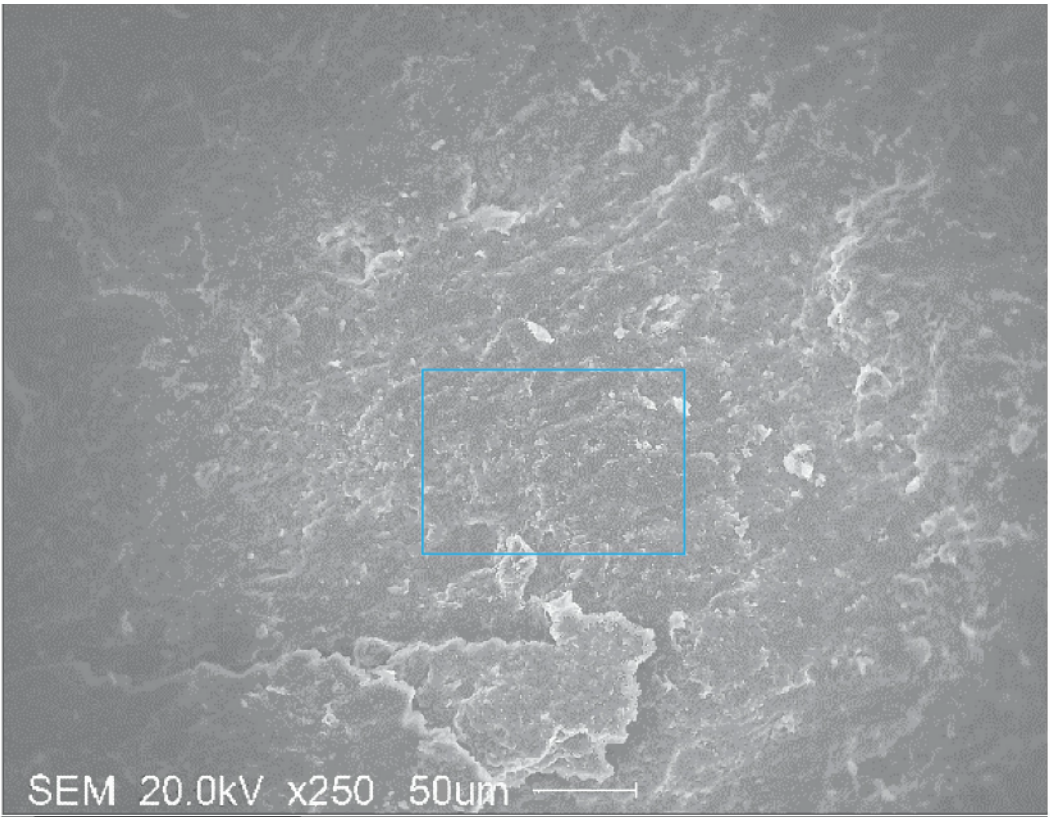


[Redacted]

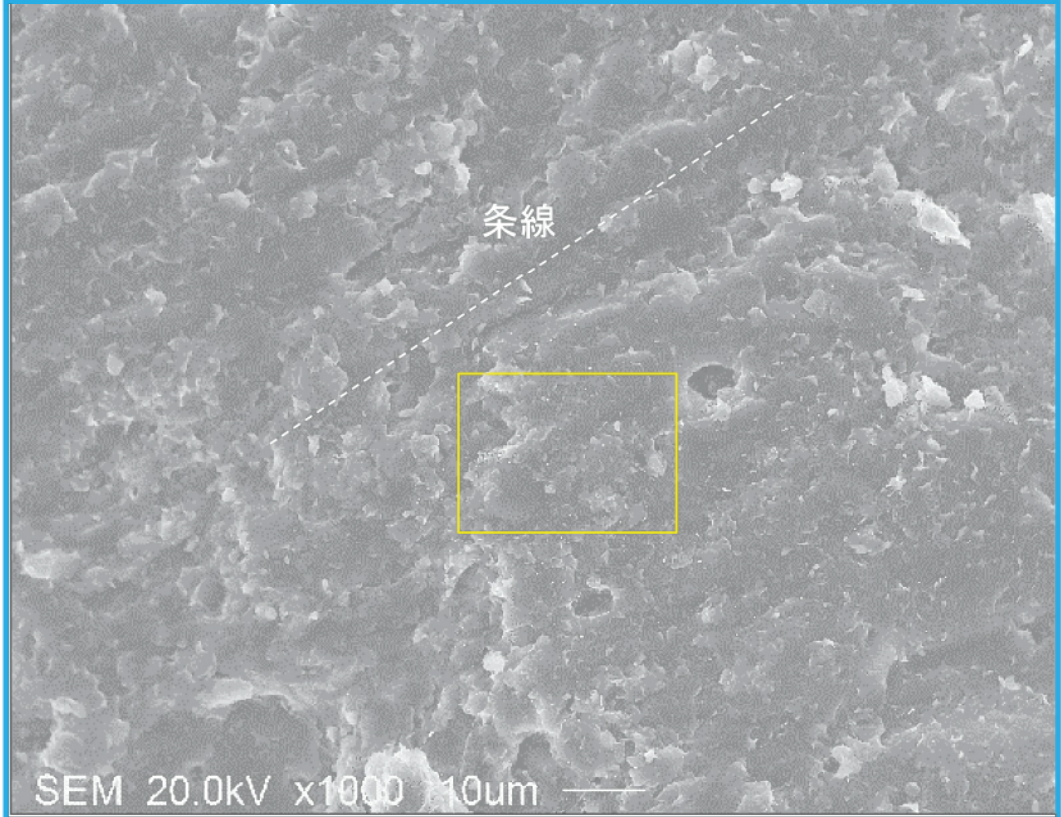
32.35m付近 電子顕微鏡観察結果

電子顕微鏡観察を行い、最新面上の粘土鉱物について詳細な観察を行った。

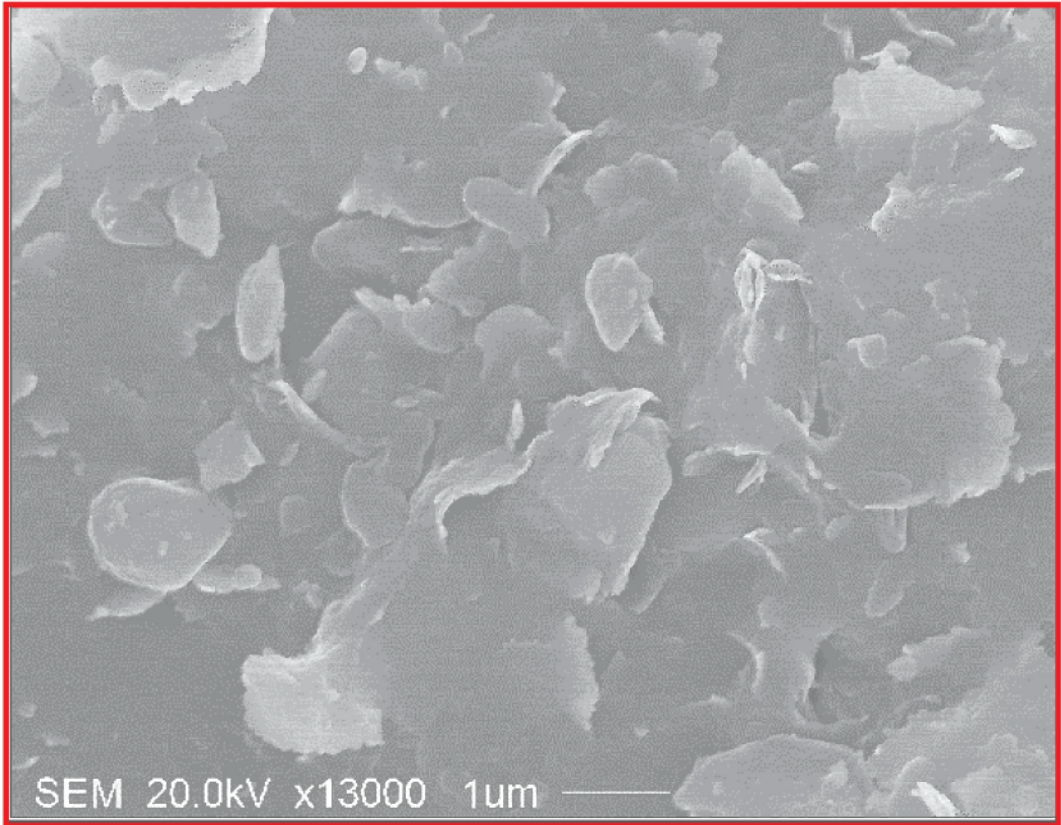
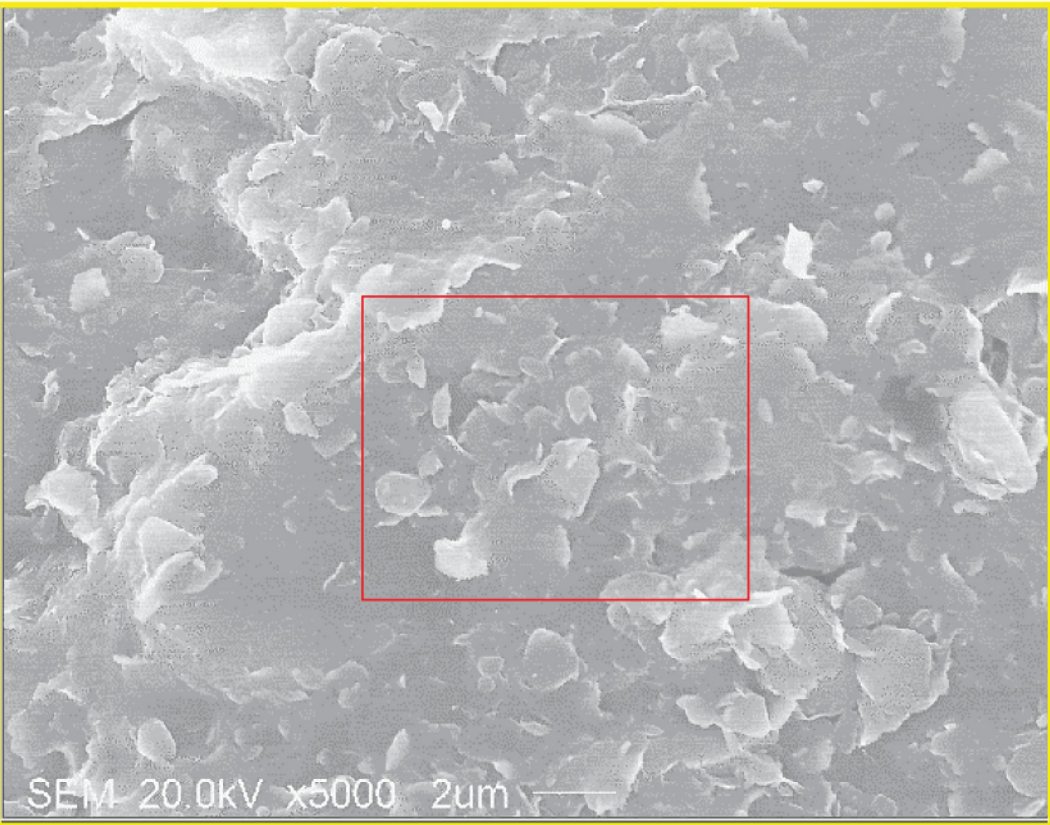


[Redacted]

32.35m付近の最新面上のSEM画像(最新面を下から見上げる)。



観察面には明瞭に条線が認められ、すべり面上を観察していることがわかる。



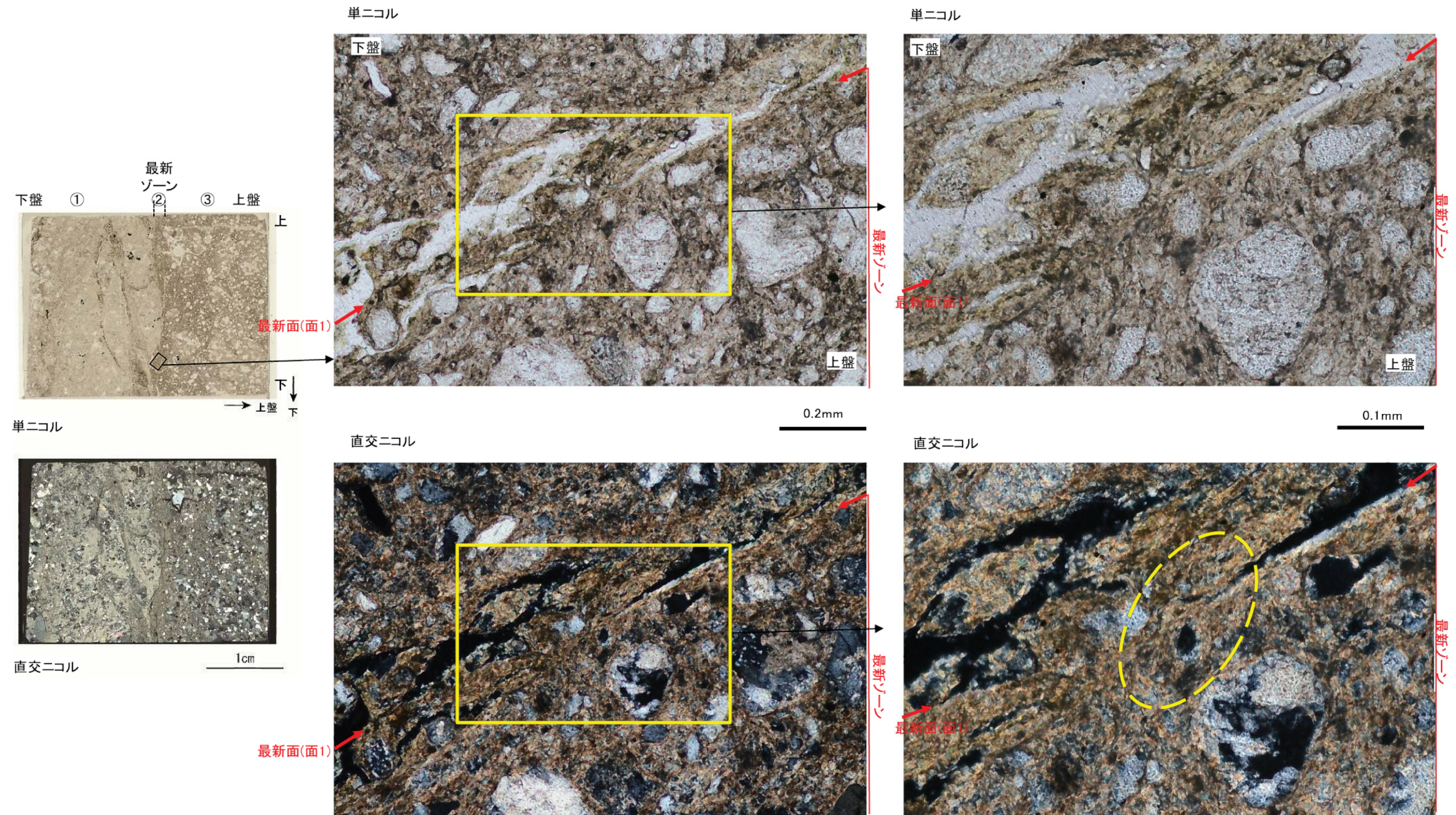
最新面上に粘土鉱物が生成しており、結晶は破壊されていない。

[Redacted]



80.65m付近 薄片観察結果(1)

CT画像観察、条線観察を実施した上で、 として認定した破碎部のうち 80.65m付近で認められた破碎部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細な観察を行った。

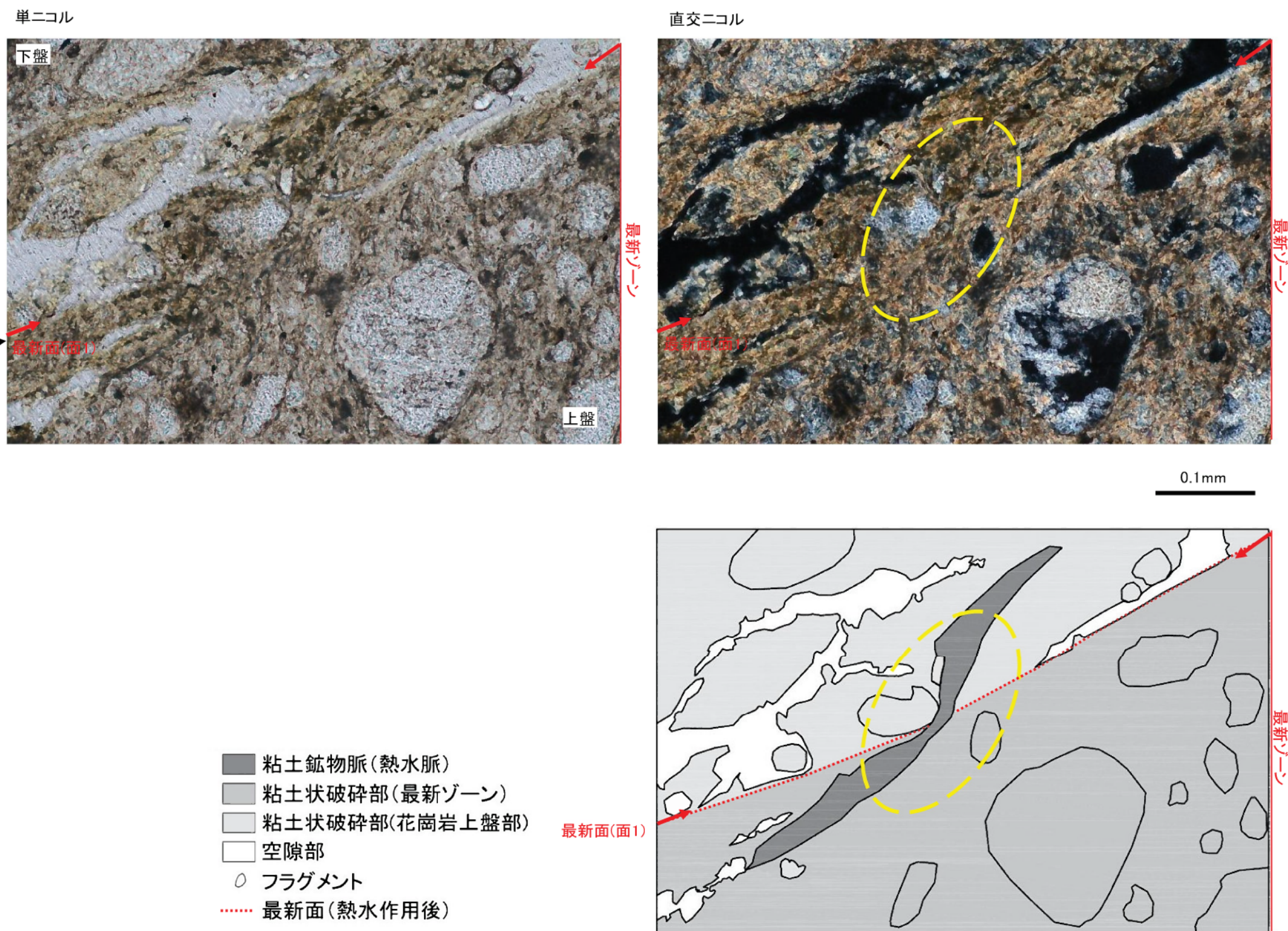


- ・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。



\_\_\_\_\_

として認定した破砕部のうち



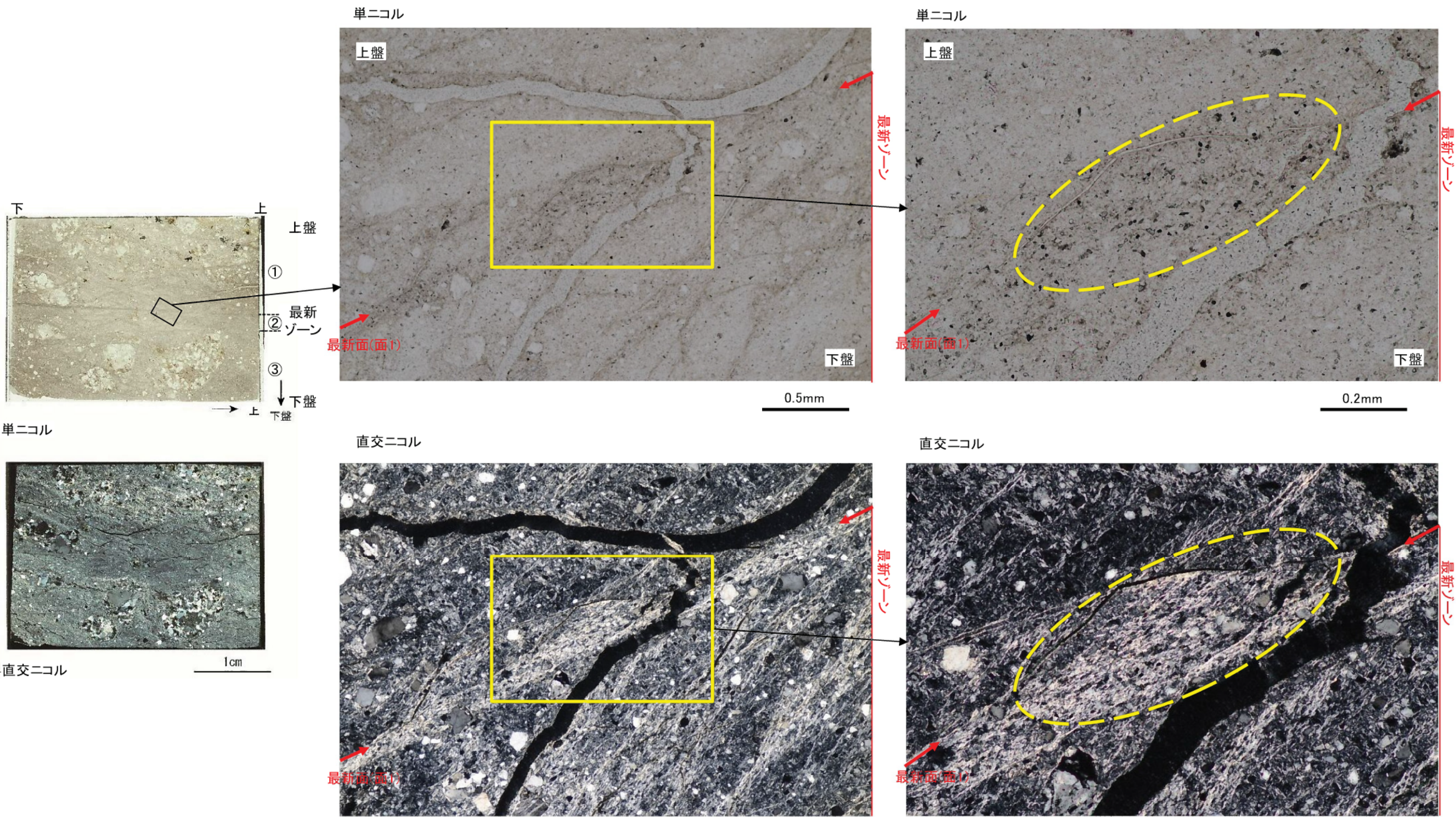
-  粘土鉱物脈(熱水脈)  
 粘土状破砕部(最新ゾーン)  
 粘土状破砕部(花崗岩上盤部)  
 空隙部  
 フラグメント  
 最新面(熱水作用後)

- ・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。



16.63m付近 薄片観察結果(1)

CT画像観察、条線観察を実施した上で、 として認定した破砕部のうち 16.63m付近で認められた破砕部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細な観察を行った。

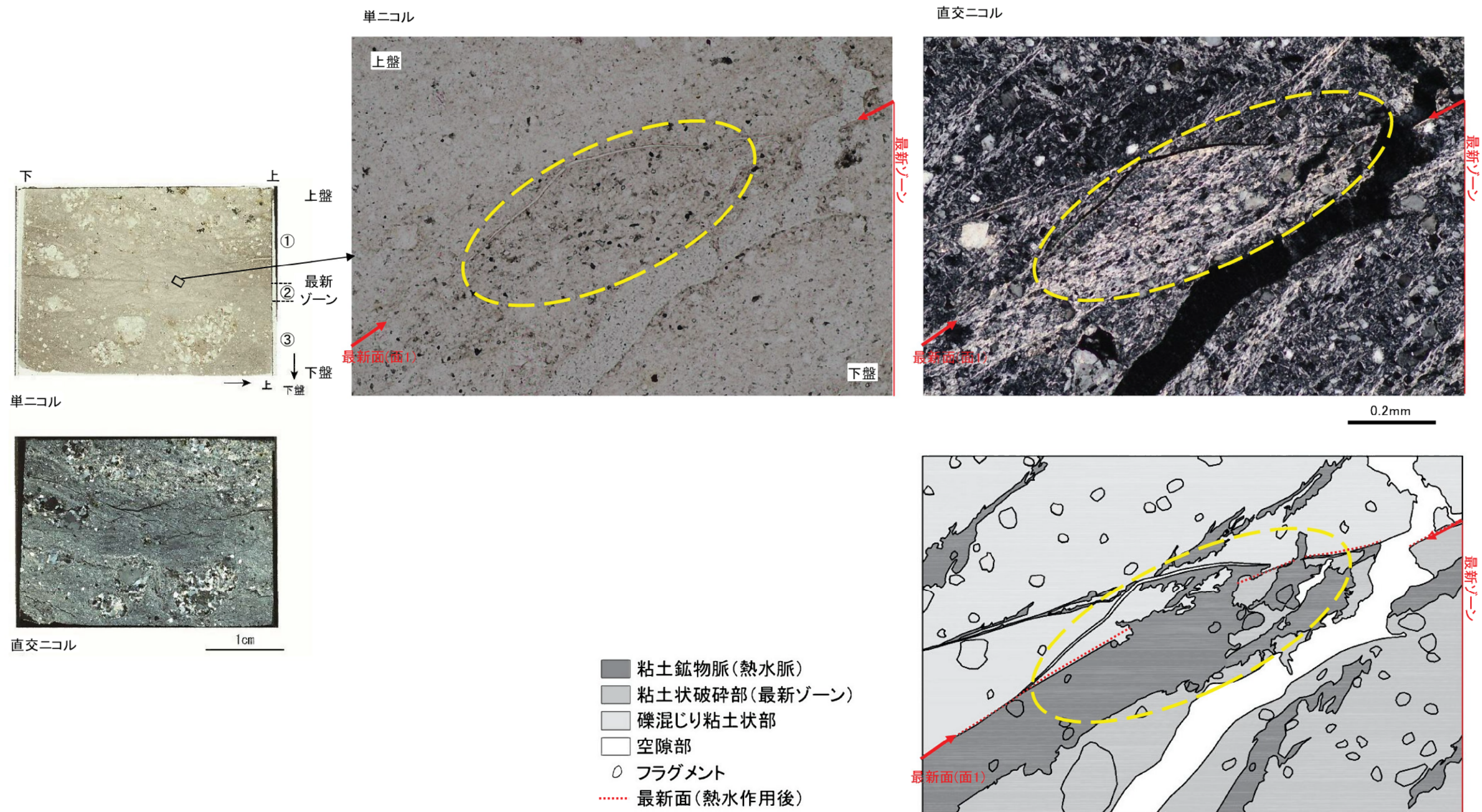


- ・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。



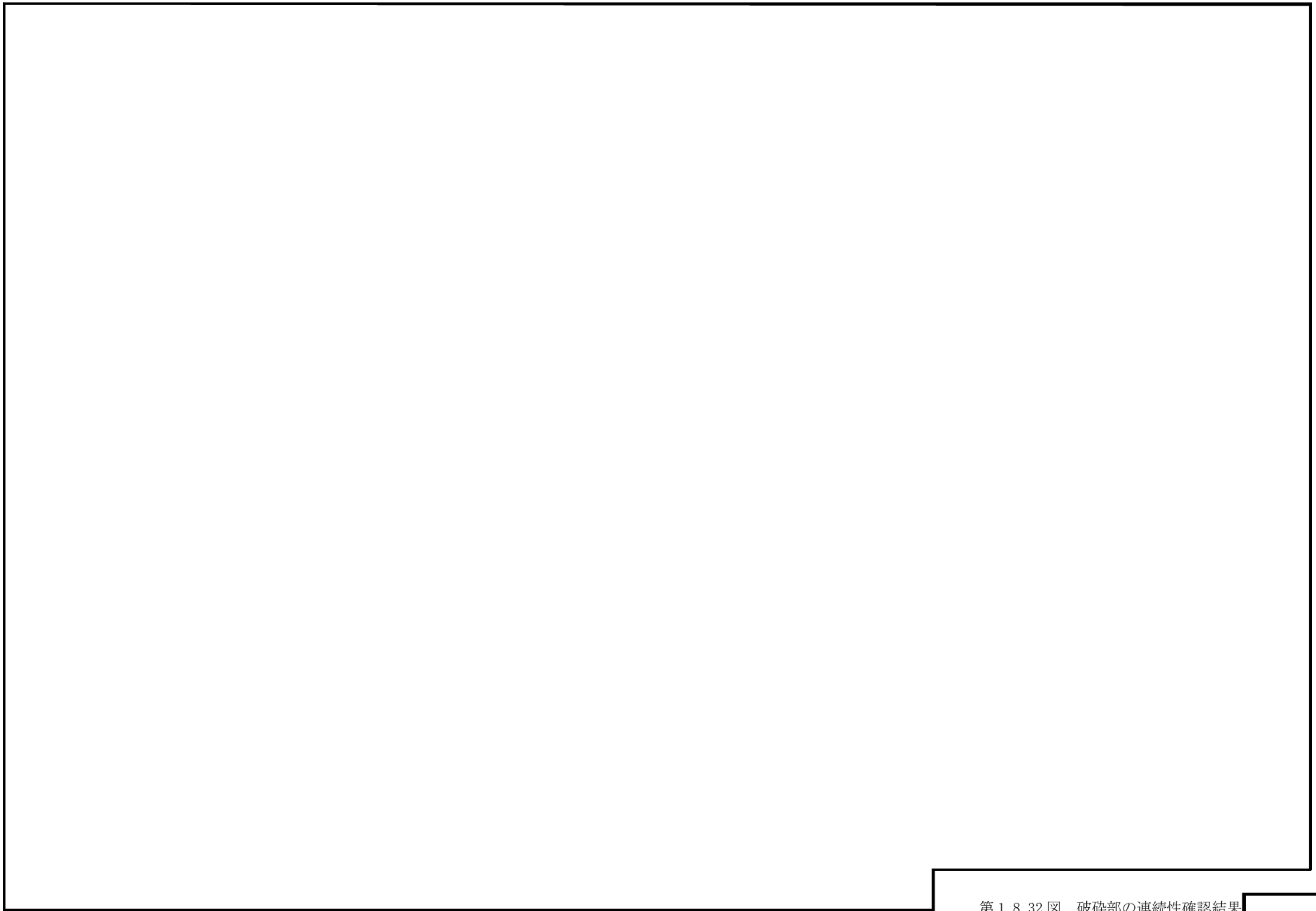
16.63m付近 薄片観察結果(2)

として認定した破碎部のうち 16.63m付近で認められた破碎部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細観察結果のスケッチを以下に示す。



・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。  
・また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。





第 1.8.32 図 破碎部の連続性確認結果

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

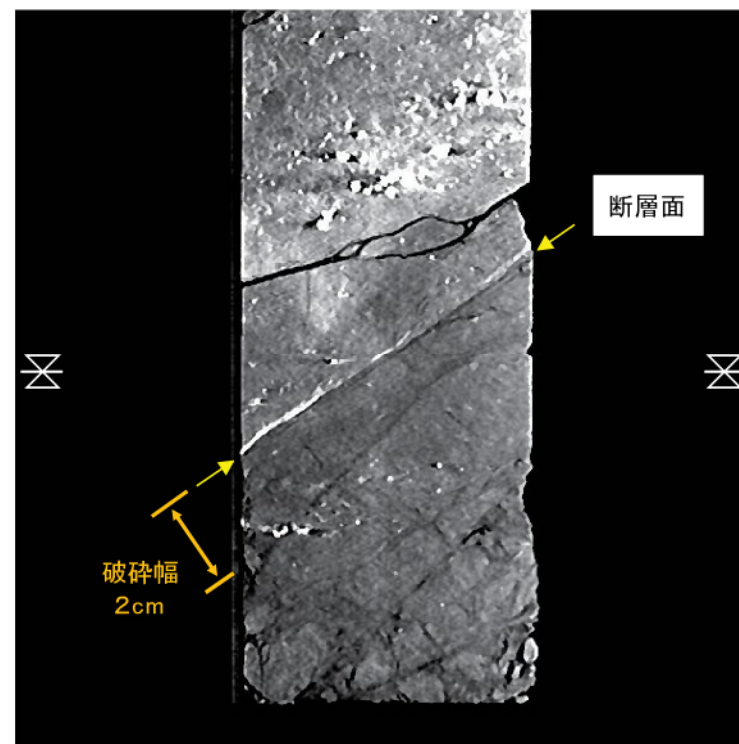
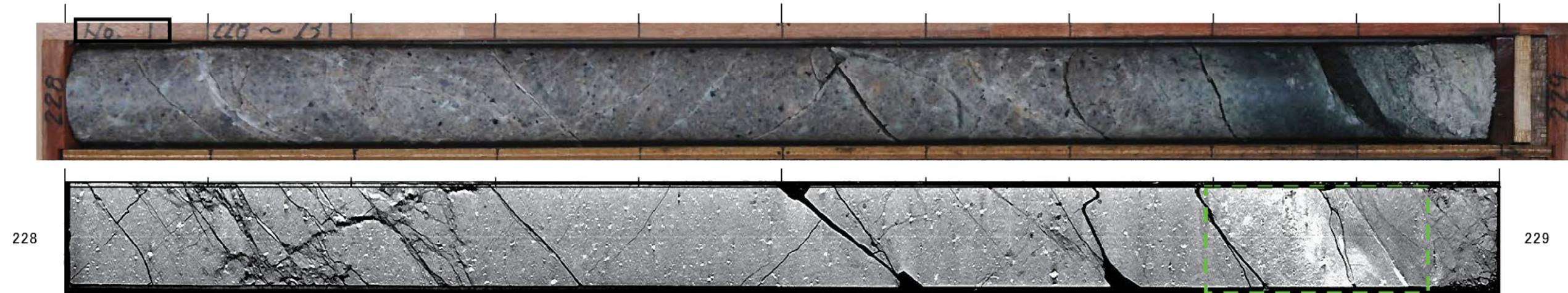


228.91m付近 CT画像観察結果

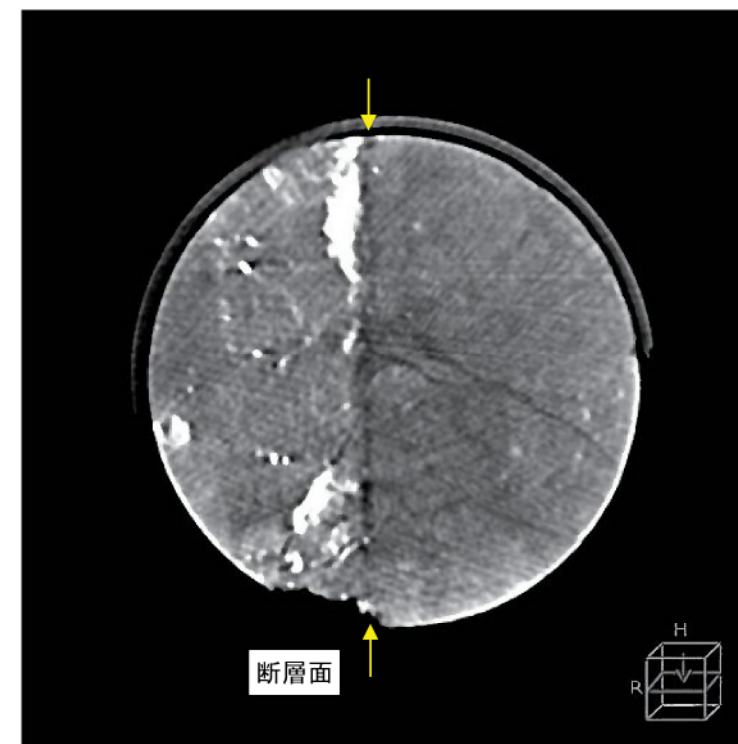
CT画像観察により、他の構造に切られず、三次元的に直線性・連続性に富む断層面の観察及び破碎部性状の確認を行った。

【諸元】

孔口標高：E.L.+64.01m、掘進方向：S52E、掘進角度：60°、掘進長：240 m



最大傾斜方向の断面



コア軸直交方向の断面

コア確認によって認められた破碎部のCT画像観察の結果、断層面に沿って、幅2cmの破碎部が認められる。破碎部周辺は変質を受ける。



228.91m付近 条線観察結果

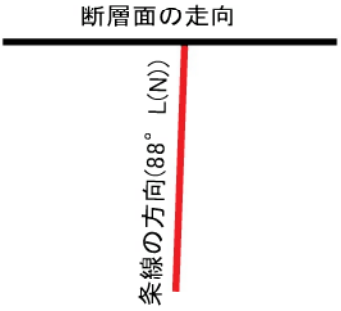
CT観察における断層面において条線観察を実施した。



断層面(下盤上面)

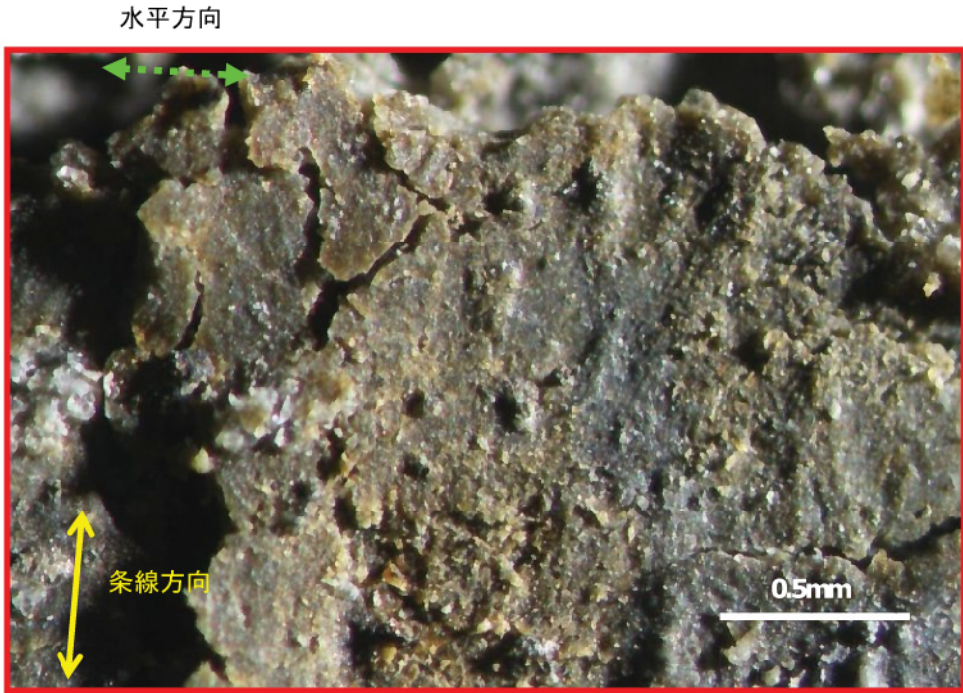


断層面の状況



条線の方角を示す模式図は、  
下盤側の上面を上から見た  
状況を表す。

CT観察における断層面において条線観察を実施した結果、  
レイク88° L(N)の条線が認められる。センスは不明。



断層面の状況



|  |
|--|
|  |
|--|

**\_\_\_\_\_**

